

- 【 研 究 課 題 】 自然環境を大切にする心と実践力を育てる環境教育と校長の在り方
 【リーダーシップの視点】 1. 教科・領域等との関連を図った、環境教育の推進
 2. 多様な体験的活動を通し、実践的態度の育成の充実

I 分科会研究協議の運営計画

今、地球の環境汚染や異常気象、自然災害の多発、中でも地球温暖化は、人類の生存にも関わる課題である。環境破壊の抑止、生物多様性の保全等の地球環境保全の考えに立ち、自然環境の保護・整備や循環型社会の形成に向けた意識改革が望まれている。

このような現実をはっきりと認識し、持続可能な社会をつくる人間と環境との関わりについて、子どもたちに地球的視野で考えさせることが大切であり、次代を担う子どもたちに期待する役割や教育に委ねられている期待は大きい。子どもたちが、かけがえのない地球環境の保全に取り組む意欲・能力を身に付ける教育の推進が望まれている。

そのためには、子どもたちが体験活動等を通して身近な環境や生活から環境問題について考え、人間と環境とのかかわりについて理解を深め、正しい知識や見方・考え方を身に付けていくことが大切である。さらに、自然と共生するため、環境保全への実践的な態度や能力を身に付けるとともに、身近なところから環境問題の解決に向けた具体的な行動をとり、積極的に取り組んでいく子どもを学校・家庭・関係機関等が連携して育成していく必要がある。

そこで、第 11 分科会は、

- ・ 自然環境を大切にする心 ・ 環境保全のため主体的に行動する実践的な態度や資質・能力
 → これらを育てる環境教育～学校全体で推進していく上での校長の在り方を明確にする

《リーダーシップの視点 1》

- ◇ 教科・領域等との関連を図った、環境教育の推進
 - ・ 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の関連を図り、全校体制で取り組む環境教育の推進
 - ・ より良い環境づくりや環境保全に主体的に取り組む態度と能力の育成

《リーダーシップの視点 2》

- ◇ 多様な体験的な活動を通し、実践的態度の育成の充実
 - ・ 体験的な活動を重視し、問題解決的な学習や実践的な活動に取り組む教育活動の充実
 - ・ 家庭・地域・関係諸機関との連携を図り、環境保全に主体的に取り組む態度と能力を育てる実践的な活動の工夫

II これまでの成果・課題

～平成 27 年度 道小 十勝大会から～

《研究の視点 1 に関わって》

- 環境教育を教育課程だけでなく、「重点目標や経営の重点項目」や「校務分掌組織」に位置付け、教職員の役割を明確にした学校が多くなったこと。
- 校長自身が目指す環境教育の全体像と具体的な実践イメージを教職員に明確に示し、教職員の参画意識を高めること。
- 年間指導計画に基づいた実践を毎年、学校評価の項目に位置付け、全体で再検討し、子どもの実態に応じ、各教科・領域との関連をもたせた単元の改善を進め、校内で共有していく必要があること。

《研究の視点 2 に関わって》

- 自校の実態や地域の特性を生かした体験活動を実践したり、家庭・地域と連携した取組を推進したりする学校が多くなったこと。
- 環境に対する子どもの多面的な視点や実践意欲を育んでいくために、身近なフィールドでの体験活動を開発すること。
- 環境教育の持続性や専門性、発展性の確保に向け、保護者や行政、専門機関等との連携が図れるように、学校内外の組織づくりなど諸条件の整備を進めることと、中学校区などで環境教育の年間指導計画の共有などの校種間連携を強化すること。

Ⅲ 研究発表の概要

- ◆研究発表者 苫小牧市立美園小学校 校長 羽田野 勝弘
- ◆発表題 「地域素材を活用した環境教育の推進と校長の役割と指導性」
- ◆発表の要旨

苫小牧市の小学校における環境教育に対する実態調査を基に、「教科・領域等との関連を図った、環境教育の推進」と「多様な体験的な活動を通し、実践的態度の育成の充実」の2つの視点で校長の役割と指導性について、研究を推進しています。

視点1では、『年間指導計画』や『推進組織』の整備、環境保全に対する『研修』や『他校との実践交流』などで、校長のリーダーシップが必要

- ・各校で現在行っている環境教育に関わる取組と関係する教科や領域を整理するなどして、全体の共通理解につながる年間指導計画の整備を推進
- ・実際の取組内容を、学校の評価項目に位置付けるなどして、実践のマンネリ化を防止

視点2では、『体験活動の開発と系統性を位置付けた年間指導計画の整備』や『実践例や協力可能な関係機関等の情報交換』、『校種間の連携』などで、校長のリーダーシップが必要

- ・各学校の実践例や地元で協力してもらえる行政機関・民間団体の情報を交換することにより、体験活動の内容が充実し、協力してもらえる関係機関や団体の選択肢が増加
- ・地域素材の活用だけでなく、学年の発達段階に応じ、地域・家庭と連携した活動を実践することにより、生活に生き、環境保全につながる実践的態度を育成

Ⅳ 協議の流れ

※会場責任者から開会予告があります。

12:55～

※グループ名刺交換・・・自席に着席した方から順次お願い致します

1. 開会の言葉

13:00～

2. 担当者・司会者紹介(10分)

～13:10

3. 趣旨説明(10分)

13:11～13:20

4. 研究発表(20分)

13:21～13:40

5. 研究発表に対する質疑応答(15分)

13:41～13:55

- ・参加者は、付箋に研究内容への質問や感想を書く
- ・研究内容の質疑・応答

6. 休憩(15分)

13:56～14:10

7. グループ討議(90分途中10程度休憩)

14:11～15:40

【討議の柱】(リーダーシップの視点1, 2から)

☆校長として、毎年、学校全体で環境教育の位置付けを明確にし、その取組に改善を加えていくために果たすべき役割と指導性の究明について

☆校長として、学校だけでなく地域や専門機関等と連携した体験活動を含む環境教育をマネジメントするために果たすべき役割と指導性の究明について

8. 休憩(10分)

15:41～15:50

9. 全体協議(25分)

15:51～16:15

1グループ3分

10. 研究協議のまとめと今後の課題(10分)

16:16～16:25

11. 連絡・閉会(5分)

16:26～16:30

第11分科会参加者の皆様へ

◎ 名刺を10枚程度ご持参下さい。

◎ 自校の「環境教育」に関わる資料を、運営者・グループの人数(15部程度)分、ご持参下さい。その資料をグループ討議で活用します。

特に、校長として環境教育に対する方向性・考えを位置付けた経営方針、実践例、評価項目
地域・保護者・専門機関等と連携した取組

各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の関連を図った指導計画・実践等
についての資料の用意を、よろしくお願いいたします。